

# 長野県地域防災推進協議会

会報 Vol.1

発行:長野県地域防災推進協議会事務局 2019.7.1

報告

## 設立総会を開催しました

長野県内で活動する防災士や自主防災アドバイザー等のネットワークを構築し、研修情報交換を通して地域の防災・減災活動を進めるために、「長野県地域防災推進協議会」(事務局:松本大学)を立ち上げ、4月20日に設立総会を開催しました。総会には会員約90名(委任状含む)が参加し、規約の承認、役員を選出をしました。

松本大学で防災士養成研修講座を開始して以来、資格取得後の研修プログラムを求める意見・要望が数多く寄せられたことから設立に至りました。防災士をはじめとする

地域防災を担う人材を養成するほか、防災・減災に関する知識と技能の習得およびスキルアップのために定期研修会を実施していきます。また県内の自治体と協力し、要請に応じて防災関係講演会、防災計画等の立案・運用に際して、協議会会員を紹介・派遣することも検討しています。

7月現在約120名が会員として登録しています。会員の皆様には、地域と連携を図りながら防災・減災活動を進めていくためにも、協議会について広く周知していただき、活動にお力添えをお願いいたします。



## 2019年度・2020年度 長野県地域防災推進協議会 役員紹介

### 会長

#### 有賀 元栄 (上伊那郡辰野町)

長野県自主防災アドバイザー  
長野県災害ボランティアコーディネーター  
辰野町防災士連絡協議会長  
辰野町社会福祉協議会災害時住民支え合いマップ作成サポーター



### 防災・減災活動の学びの場に

長野県地域防災推進協議会  
会長 有賀 元栄

長野県地域防災推進協議会が設立され、会長を仰せつかりました。微力ながら会発展のために務めさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

阪神・淡路大震災時、医療支援で神戸に入ったのが縁で、防災活動を始めました。当時は避難所開設運営、災害ボランティアセンターの開設・運営もままならない時期でした。それを機に「災害支援活動の担い手を」との意識が高まり、長野県は災害ボランティアコーディネーターの養成を、日本防災士機構は防災士の養成を始めました。今では防災士数も20万人に届くまでになりました。

防災士のみならず防災・減災活動を目指す人が地域で活動できる学びの場が、この会の設立趣旨であります。本会員として共に学びましょう。

### 副会長

#### 早川 英治 (長野市)

NBS長野放送企画推進部長/元ニュースキャスター・報道部長  
阪神・淡路大震災の取材をきっかけに、災害・防災・減災報道に注力

#### 村瀬 直美 (松本市)

株式会社村瀬組 代表取締役

#### 須崎 博雄 (上田市)

上田ボランティア連絡協議会会員  
「地域で支え合う仕組みづくり」と「制度の狭間で困っている方の支援」の実践

### 幹事

#### 飯森 定治 (安曇野市)

株式会社ユビキタス総研 代表/防災士  
NPO NA-SA (スキー協会) スキー・リーダー  
外資系企業(IT企業)で中央省庁や大企業の行政改革/経営改革のコンサルティングに携わり、5年前に東京からUターン

#### 小澤 定久 (上伊那郡辰野町)

上伊那産業振興会元気ビジネス応援隊(コーディネーター・アドバイザー)  
電子・電気機器の製造及び品質管理の作業に携わる  
企業支援(電子実装・ISO9001品質マネジメントシステム等)

#### 木村 晴壽 (松本市)

松本大学総合経営学部 教授/地域防災推進責任者

#### 原山 朋子 (松本市)

松本地域のコミュニティFM エフエムまつもと株式会社 79.1MHz  
パーソナリティ・記者・制作

### 事務局長

#### 尻無浜 博幸 (安曇野市)

松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科長 教授  
松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトリーダー





# 宮城県石巻市での研修会を終えて



多数の児童が津波に巻き込まれた石巻市立大川小学校で説明を受ける

4月に発足した長野県地域防災推進協議会（以下、「地域防災協」）の2019年度第1回研修会を、6月21日・22日、8年前の東日本大震災で大きな被害を被った宮城県石巻市にて行いました。防災士である松本大学生を含む30名の地域防災協会員が、被災地の空気を直に感じながら2日にわたって貴重な体験をするとともに、その学びから地域防災をより現実的な体制へと進展させるヒントを得ました。

今回は“災害と避難所”をテーマとしたため、8年前の災害時に様々な困難を経験した避難所の石巻市立大街道小学校体育館を会場に研修を実施し、当時の学校長、消防団長、避難所運営に携わった方に、激甚災害時の避難所が抱えざるを得ない種々の問題を生々しく語っていただきました。また、石巻市立大川小学校の視察や、避難所で被災者の対応にあたった精神科医の話聞く中で、「判断」と「行動」がいかに重要かを学び、そのためにどう備えていくべきか、各々が深く考えた研修となりました。



最も大きな被害を受けた南浜町を視察



石巻市立大街道小学校で当時の学校長らが講演



小学校に設置された市の防災倉庫。校舎には食料も備蓄する

## 新たな悲しみを生み出さないために

長野県自主防災アドバイザー / 防災士 小林 光洋 (伊那市)

前職でリスクマネジメントを担当したこともあって、防災士を取得して6年になります。

労働災害や交通事故を防止し、安全を確保するためにはマニュアルが必要不可欠であり、事象発生時には想定をさらに超える対応が求められていたこともあり、防災士にも共通することがあると思ってきました。研修会の前には報道写真集や録画した報道番組を見直し、見聞を広めると言う気持ちで参加を決めました。石巻の方々の心に接する機会を与えて頂き、「何とか出来なかったのか」と強く思うようになりました。大災害や激甚災害という言葉で、犠牲になられた方々を数字で考えてしまいがちですが、一つの命には家族や友人の多くの悲しみがあふれ、一つの命に丁寧に向き合うことから防災の第一歩が始まるのだと気付きました。

私は、この協議会は地域の防災を推進するための協議会だと思っています。個々に得意分野や知識は様々ですが、会員の皆様が目指していることは「新たな悲しみを防ぐ」ためではないでしょうか。

長野県では津波こそ来ませんが、土石流や土砂災害、水害や地震など想定される災害は多岐にわたります。

物的・人的な要因、地形や構造物など、千差万別の条件と各戸で違う家庭状況や立地条件は、避難手順を一律に決めることができませんが、地域の方々と連携し、住民目線の防災を進めていこうと思います。

今回の研修会では、被災されても悲しみを抑えて、私たちに災害の現状をお話くださった講師の皆様、どうして命が犠牲になってしまったのか探り続けている皆様、そして協議会の新しい仲間たちと出会うことができました。地域の防災を推進することは漠然としているように思いますが、仲間と情報交換をするなかで、自分の地域を、時には俯瞰的に、時にはひとつを深く探り、新たな悲しみを生み出さないことを主軸にして活動していくことを心に深く刻むことができた研修会でした。

研修会の事前準備から行程管理までをされた松本大学関係者の皆様、本当にありがとうございました。



「ここで起きたことを未来につなげてほしい」という言葉をかみしめる



避難所で被災者の対応にあたった精神科医の話聞く



大街道小学校の体育館には地域住民の避難位置を示した図や、子供たちが描いた避難方法が掲示されている



“災害と避難所”をテーマに貴重な講演を聞き、今後の活動について考えた会員たち